

# 伊吹山登山道の崩壊と応急作業の結果報告と提案

令和3年2月2日

ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

代表 高橋滝治郎

## 1 登山道および中腹斜面の崩壊の現状

### (1) 概況

近年、大雨や登山者のショートカットなどにより登山道が荒廃が進むとともに、ニホンジカの異常繁殖による影響で伊吹山中腹も食害による斜面の裸地化が拡大し、生態系はもとより土砂流出による登山道の崩壊、登山者の安全確保への影響も懸念されていた。

このため、昨年度からユウスゲと貴重植物を守り育てる会有志を中心に、土嚢などを活用して登山道の保全作業を実施してきた。

#### 2020年4、5月の土嚢による登山道の保全作業



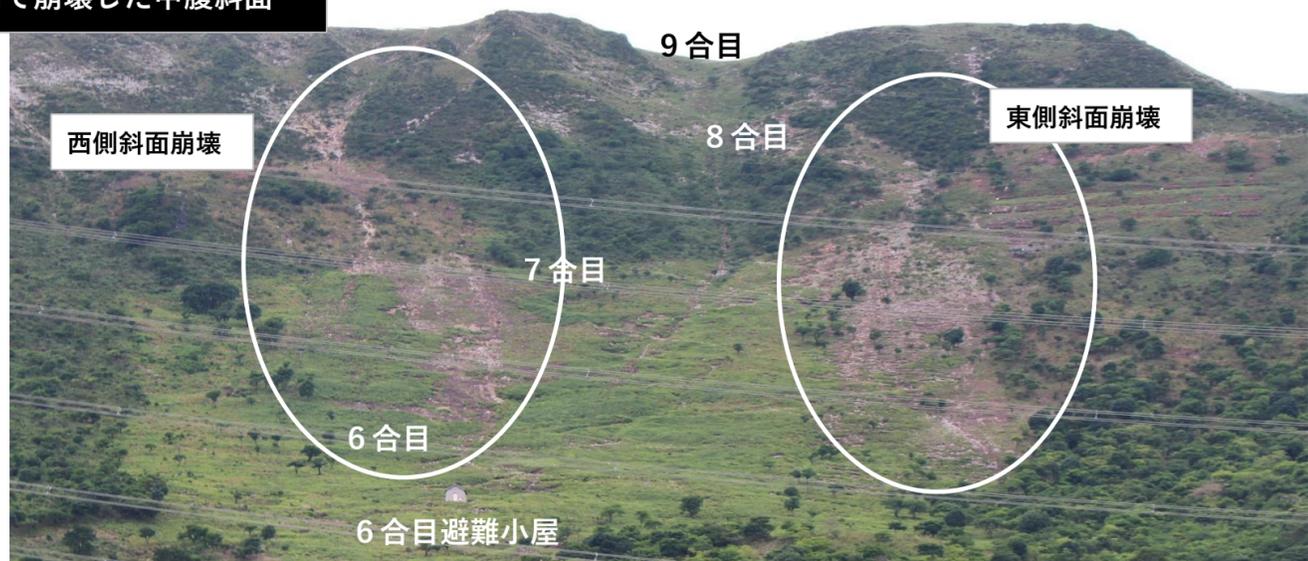
5合目下部



5合目上部

そのような中、昨年7月上旬、梅雨後半の大雨により5合目辺りから8合目にかけて、大規模な土砂流出による登山道および中腹斜面の崩壊が発生した。これは近年にない広範囲にわたる斜面の崩壊で、その対策は中長期的な計画を策定し実行すべきものであるが、たちまち登山者の安全確保のための応急対策をすることが不可欠な状況であった。

#### 【2020年7月】 土砂流出で崩壊した中腹斜面



#### 【かつての姿】 2007年6月緑で覆われた中腹斜面



### (2) 登山道の荒廃と応急対応の状況

昨年7月の災害では、大量の降雨による登山道の洗掘、登山道両サイドの斜面崩壊、休憩エリアへの大量の土砂流入などが大きな被害が発生した。

家族連れを含む多くの登山者の安全確保するため緊急に応急措置を行うべき状況と判断し、ユウスゲと貴重植物を守り育てる会有志と地元の方とともに、特に登山に危険な箇所を中心に応急対応を行った。